

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究
課題名：東京湾におけるアサリの資源動向と今後の課題			
[要約] 東京湾のアサリ漁獲量は埋め立てがほぼ終了した 1985 年以降、約 20,000 トンをピークに減少しており、2005 年は約 5,000 トンに減少している。アサリ漁獲量減少の要因は稚貝発生量の減少、冬季の波浪によるアサリ資源減少が考えられている。アサリ増産対策として、冬季波浪抑制対策、天然稚貝捕集技術開発に取り組んでいる。			
キーワード アサリ、生息密度、稚貝発生量、冬季減耗、増産対策			
実施機関名 水産総合研究センター 東京湾漁業研究所 のり・貝類研究室			
実施期間 1986 年度～2005 年度			

[目的および背景]

アサリなどの貝類資源状況を把握し、適切な資源管理を行うことを目的として、1980 年台後半から原則的に 2 ヶ月に 1 回の間隔で、富津市から市川市の漁協と共同で貝類資源調査（アサリは殻長 4 mm 以上）を実施している。近年、東京湾の主要なアサリ漁場である三番瀬（市川・船橋市）、盤洲（木更津市）・富津干潟漁場でのアサリ資源状況は減少傾向にあるため、アサリ増産対策に対する漁業者からの要望は強いのが現状である。

[成果内容]

- 1 三番瀬，盤洲・富津干潟漁場ともに稚貝発生量が減少している（図 1，2）。
- 2 三番瀬漁場では冬季のアサリ資源減少（冬季減耗）が深刻な問題となっている（図 3）。また，青潮（貧酸素水）や江戸川出水による影響でへい死することがある。
- 3 稚貝発生量の減少には複合的な要因が関与していると考えられるが，冬季減耗については，波浪によりアサリが砂中から掘り起こされて死亡することが分かっている。
- 4 冬季減耗の軽減対策として，ノリ養殖支柱柵施設による波浪抑制試験を実施した結果，波浪を抑制することは可能であり，アサリを保護できることが分かっている。
- 6 干潟域に網を被せることにより（被覆網），天然稚貝が集まることが知られている。現在は被覆網による稚貝集積機構の解明および効率的な稚貝捕集方法の研究を実施しているところである。

[留意事項]

- 1 のり養殖支柱柵施設による波浪抑制については，施設の持続的な利用を図るため，事業展開可能な他の手法を検討する必要がある。
- 2 被覆網の設置・撤去を漁業者が行うことを想定した場合，省力化を図るため，機械による手法を開発する必要がある。

[普及対象地域]

東京湾（富津市から市川市）

[成果の概要]

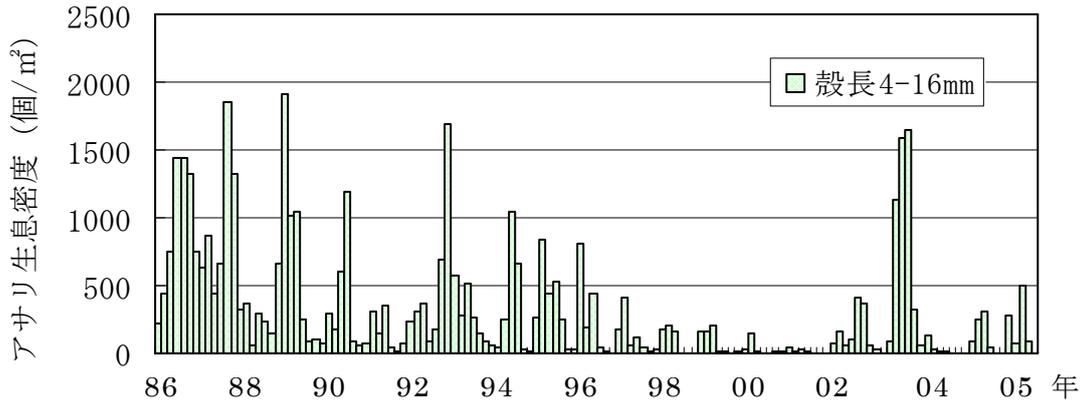


図1 三番瀬漁場のアサリ稚貝生息密度の推移

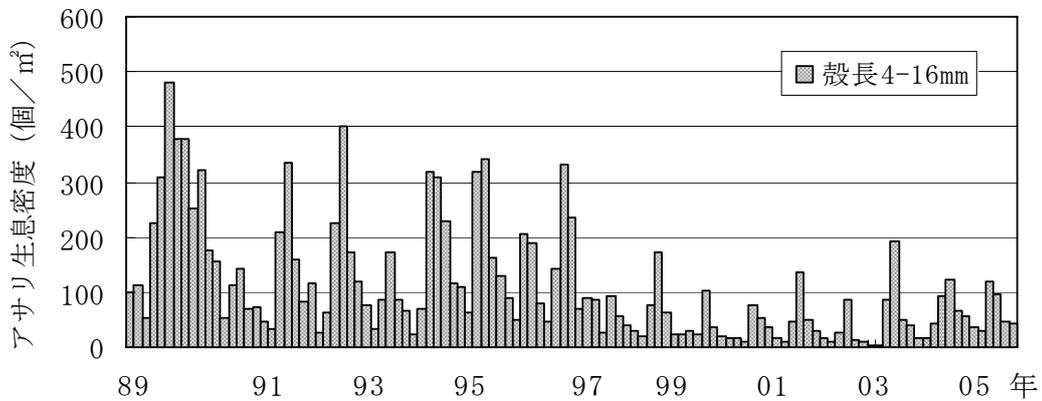


図2 盤洲・富津干潟漁場のアサリ稚貝生息密度の推移

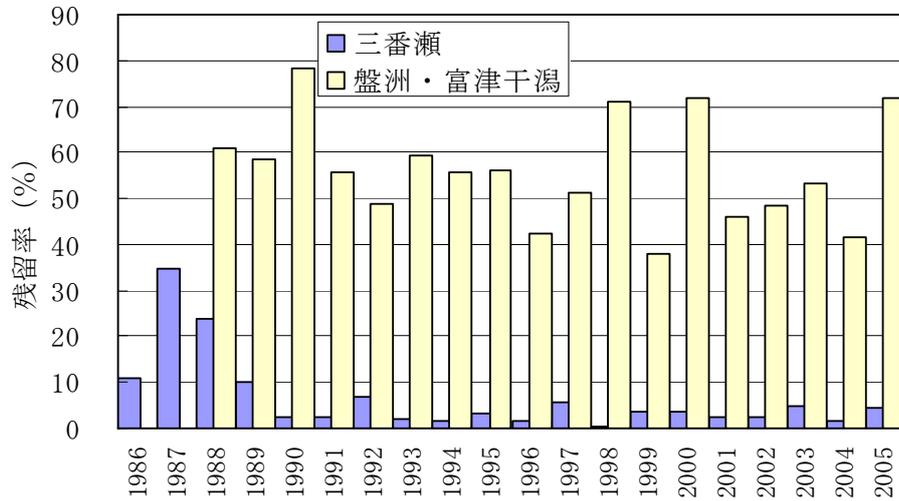


図3 10月～翌2月における三番瀬および盤洲・富津干潟漁場のアサリ残留率（殻長11～23mm）

10月に現存したアサリ生息密度（個/m²）が、翌年の2月にどれくらいの割合で残っているかを算出したものである。

算出方法：割合（%）＝翌2月のアサリ生息密度／10月のアサリ生息密度×100

[発表および関連文献]

アサリの減耗に及ぼす物理化学的環境の影響に関する研究、水産工学、第 43 号、No. 2、
2006 年

被覆網によるアサリ稚貝の高密度分布域の形成、千葉県水産研究センター研究報告、第
1 号、2002 年

[その他]

水産庁水産基盤整備事業「課題名：波浪抑制施設によるアサリ減耗防止手法の開発」